

所在地：福井県福井市 選定年月日：令和3年3月26日 面積：354.7 ha 選定基準：一(一)

(1) 概要

福井県嶺北地方の越前海岸では、丹生^(にゅう)山地の西側斜面が日本海に向かって急崖を形成しています。暖流により冬は比較的暖かく、強い海風が直接あたって雪が積もりにくく、水はけが良いため、古くから水仙が自生しています。一方、平地が少なく、冬は海が荒れ、住むには厳しい環境です。そのため、集落では、幾つもの生業を合わせながら生活が営まれてきました。

冬の副業として自生する水仙を採取し、売ってもいたようですが、近代には正月花として斜面での栽培が始まり、戦後は棚田等に栽培地が広げられ、水仙を主たる産物の一つに発展させました。越前海岸の水仙畑は、このような中で形成された文化的景観です。

この最北部を成す福井市下岬地区では、山麓部に断続的に広がる緩斜面や海成段丘に、棚田の石積みや銀杏、柿等の果樹を残しながら広がる水仙畑を特徴としています。また、このような地形における海沿い、段丘上、山間の集落の歴史と文化を表す景観を継承しています。

越前海岸における人々の暮らしを理解する上で、欠くことのできない景観として重要です。



棚田の石積みや銀杏の木を残す水仙畑



海沿いの居倉集落と段丘上の浜北山集落及び、周囲の段丘や緩斜面に広がる水仙畑

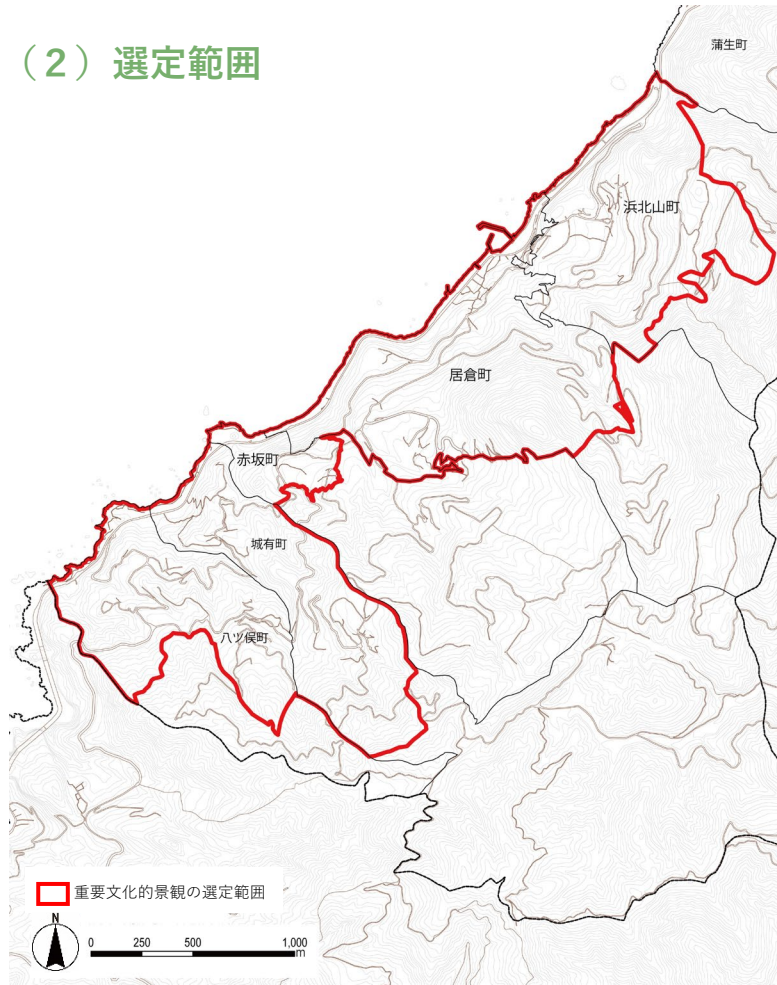


柿園を転用した水仙畑



臨海斜面地の水仙畑における摘花作業

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：23件
- ・ 県指定等文化財：木造大日如来坐像（彫刻）
- ・ 市指定文化財：木造薬師如来坐像 2 件（彫刻）、山本家文書（古文書）、居倉小浜遺跡・城有殿稲場城跡（史跡）、ガラガラ山のヤブニッケイ、大石海岸・足見滝・鯨穴（天然記念物）

（３）選定による効果

少子高齢化に伴い、水仙栽培の担い手が減少し、近年はシカやイノシシによる獣害も水仙農家を悩ませていますが、重要文化的景観の選定をきっかけに、地域の魅力と課題をカメラを使って撮影・取材し、新たな視点で情報発信するローカルフォト活動を始動しました。この活動によって、これまで水仙畑に縁の無かった地域外の人材が営農支援などに関心を持つようになり、生業について学ぶイベントへの参加者も増えてきています。

また案内サインの整備を通じて来訪者が文化的景観を知る機会を提供するほか、民間団体による古民家の改修を通じた拠点づくりを支援したことで、来訪者と地域住民との交流の場ができ、地域活性化が期待できます。



地域の魅力を取材するローカルフォト活動



水仙畑の下草刈り・作業道整備の活動

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 福井県文化的景観保存調査報告書(平成31年3月、福井県)
- ・ 越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観保存活用計画(令和2年7月、福井市)
- ・ 越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観整備計画(令和6年3月、福井市)
- ・ ホームページ

<https://www.city.fukui.lg.jp/kankou/bunka/bunkazai/cultural-landscape.html>

(5) 活用事例

事例18-01～03 ①

人と人、人と景観をつなぐローカルフォトプロジェクト

●行政による取り組み

地域に眠っている魅力や、地域の抱える課題を見つめ直し、カメラと写真の力を借りて課題を価値として生まれ変わらせる「ローカルフォト」の取り組みが全国各地で行われています。

福井市と越前町、南越前町では「ローカルフォトスクール」と題した座学と撮影取材実習を開催し、ローカルフォトの概念や方法、他地域での事例などを学びながら、地域の魅力・課題を発信する人材の育成を行っています。取材・発信を通して、越前海岸の水仙畑に関する認知度向上、水仙農家をはじめとした地元住民のシビックプライドの醸成、地域課題の共有と解決を目指します。

またローカルフォトスクールを受講したメンバーがローカルフォトグループ「越前水仙カメラ」を結成し、四季折々の生活・生業の撮影・取材、SNSなどによる発信を行っているほか、フォトブックやポスターを作成し、新たな視点から水仙畑の魅力が伝えられるよう活動しています。さらにメンバーが生業継続を自分ごととして認識するようになり、営農支援などにも活動の幅が広がっています。

団体等情報： 福井市ホームページ

<https://www.city.fukui.lg.jp/kankou/bunka/bunkazai/lps.html>

越前水仙カメラ <https://echicame.site/>



水仙畑でのローカルフォトスクール



水仙農家さんはローカルヒーロー！



地質や植物、建造物などを探求する
ローカルラーニングツアーも開催



越前水仙カメラポスター

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人づくり

（５）活用事例

事例18-01～03 ②

3市町・水仙農家などによる文化的景観保存活用のための協議会

●行政と住民等の協働による取り組み

重要文化的景観の一体的な保存活用に取り組む福井市、越前町、南越前町では、選定後に、3市町と地域団体、農家団体、観光関係団体による「越前海岸の水仙畑の文化的景観保存活用連携協議会」を結成しました。福井県のオブザーバー参加を得て、例年8月に総会を開き、事業に関する議論や水仙農家の担い手不足や獣害などの共通する課題についての情報交換を行い、それに基づいて9月～3月にかけて連携事業を推進しています。

具体的にはローカルフォトプロジェクト事業（事例18-01～03①参照）や、広域ガイドマップ作成・映像制作による情報発信、案内サインの統一などを通して、認知度向上を図り、越前海岸の水仙畑のブランドイメージを醸成することに努めています。

また水仙農家や有識者を講師にして、草刈り・水仙収穫・石積みなど、水仙栽培に必要な作業を学ぶ「文化的景観守り人育成事業」などを実施し、担い手不足・関係人口の増加を図っています。

今後も、地域振興や営農発展について総合的に議論できる場となるよう組織を発展させていきたいと考えています。

団体等情報：越前水仙カメラ <https://echicame.site/>

地域：越前公民館、上岬地区を良くする会、糠区
 観光：越前イメージアップ推進協議会、越前町観光連盟、南越前町河野観光協会
 農家：こしの水仙部会、越前町すいせん部会、河野水仙出荷組合
 行政：福井市、越前町、南越前町
 オブザーバー：福井県
 （事務局は行政の担当部署が2年毎に持ち回り）

協議会構成団体



水仙収穫体験（文化的景観の守り人育成事業）



水仙畑の下草刈り体験（文化的景観の守り人育成事業）



越前海岸の水仙畑ガイドマップ作成

水仙収穫体験参加者（地域外在住）の声

写真や映像でよく見る景色ですが、実際に来てみると迫力が違いました。足が竦むような場所を畑にして作業している農家さんたちはすごい。この景観を残してほしいです。

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源と運用
確保

⑥ 人づくり・
人育て

(5) 活用事例

事例18-01 ③

若者による、規格外の水仙を活用したビジネスの創出

文化庁補助金

●住民や団体等による取り組み

合同会社ノカテは、文化的景観「越前海岸の水仙畑」をフィールドとして「人々が新しい関わり合いを楽しみ、地域の可能性が開かれる未来をつくる」を目標に活動しています。水仙の新しいビジネスとして規格外水仙を「水仙ブーケ」に再ブランディングして販売。ECサイトのほか無印良品の協力を得て、東京、大阪、石川等の店舗で生花やグッズの展示販売会を開催し、水仙ブーケを作るワークショップなどを通じて文化的景観の魅力・課題を伝える活動をしています（この活動にはローカルフォト「越前水仙カメラ」（事例18-01~03①参照）も協力）。

また重要な構成要素である居倉町集落内の古民家を「点景」として整備し（令和4年度国庫補助事業）、情報発信を行うとともに、地域の生活を体感できる宿泊施設や地域との交流の場として運営することで、水仙産地に新しい人の流れを作ろうとしています。今後は水仙ブーケ販売や宿泊業などの収入を財源に、水仙産地の暮らしを体験するインターシッププログラムを実施・受け入れするための拠点（シェアハウス）づくりも検討しています。



ノカテの水仙ブーケ



水仙をモチーフにしたグッズも販売している



水仙ブーケを作るワークショップ



「点景」での交流会

団体等情報： 合同会社ノカテ 水仙ブーケ 点景

<https://nokate.theshop.jp/>
<https://www.tenkei-fukui.jp/>

① 地域内での
魅力の共有② 活性化の
目標の共有③ 地域外への
広報④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 確保と運用

⑥ 人づくり・